

Ⅲ 前回の調査結果により事業に活用した事例の進捗状況

●稲沢市職員人材育成基本方針の策定に向けて【人事課】

設問	1. あなたが求める稲沢市職員の最も重要な姿を次の項目から選んでください。 2. あなたが現在の稲沢市職員に備わっていないと思うものを選んでください。
調査結果	1. 「意欲的に職務を遂行し、市民の立場に立って行動する職員」が 33.0%と最も高く、次いで「笑顔を絶やさず親切・ていねいな対応ができる職員」が 30.4%、「全体の奉仕者として自覚と責任を持ち、市民に信頼される職員」が 17.6%となりました。 2. 「市民目線」が 31.5%で最も高く、次いで「創造性」「親しみやすさ」がそれぞれ 17.1%となりました。
活用した事例の進捗状況	この結果を基に「稲沢市職員人材育成基本方針」を平成 30 年 3 月に策定し、この方針に基づき職員の能力開発や資質向上に向けた職員研修の充実と職員の意識改革を図り、稲沢市行政を担う人材を育成しています。

●市制 60 周年記念事業実施についての意識調べ【企画政策課】

設問	稲沢市は平成 30 年に市制 60 周年を迎えます。これを記念して市の魅力を広く発信する記念事業を実施するべきだと思いますか。また、どのように実施していくべきだと思いますか。
調査結果	実施の是非については、「どちらかというを実施したほうがよい」が 34.5%と最も高く、次いで「分からない」が 23.7%、「実施するべきだ」が 20.6%となり、「実施するべき」と「実施したほうがよい」で半数以上を占めました。 また、実施の方法については、「市民と行政が協働で企画し、実施するべきである」が 73.0%と最も高く、次いで「専門の業者に企画してもらい、実施するべきである」が 14.0%となり、「市民と行政が協働で企画し、実施するべき」が大多数を占めました。
活用した事例の進捗状況	この結果に基づき、CM 制作メンバーの市民公募、ロゴマーク最終選考での一般投票、市民提案事業の実施に対する補助、フォトモザイクアートに使用する写真の募集、市民参加型公開番組の招へいなど、市民参加を基調とした市制 60 周年記念事業を実施しました。

●議会広報の強化に向けて【議事課】

設問	議会の情報を発信する「市議会だより」を読んだことはありますか。また、「ほとんど読まない」「知らない、見たことがない」理由は何ですか。
調査結果	「ときどき読む」が46.6%と最も高く、次いで「ほとんど読まない」が22.9%、「いつも読む」が21.6%となりました。また、「ほとんど読まない」「知らない、見たことがない」理由としては、「興味がない」が65.3%と最も高く、次いで「内容が分かりにくい」が22.0%となりました。
活用した事例の進捗状況	議会広報の強化のため、この結果を広報広聴委員会委員へ周知しました。 専門的な用語を避け、分かりやすい文章にし、写真やイラストを増やすなど、議会を知ってもらうため紙面を工夫し、見やすい「市議会だより」の作成のために活用しています。

●図書館の利用状況調べ【図書館】

設問	あなたは、今までに稲沢市図書館を利用したことがありますか。また、利用したことがない理由は何ですか。
調査結果	利用の有無は、「ある」が62.7%、「ない」が35.8%となりました。 利用したことがない理由は、「本をあまり読まないから」が33.3%で最も高く、次いで「稲沢市図書館までの交通が不便だから」が24.5%、「利用する時間がないから」が23.7%となりました。
活用した事例の進捗状況	この結果に基づき、図書館への興味・関心を高めるよう講座・イベントなどを開催するとともに、これら事業を通して、読書につながる関連資料の紹介などを行いました。

●リサイクル資源排出方法の状況調べ【資源対策課】

設問	古紙などの資源の排出は、どの方法を最も利用していますか。
調査結果	「分別収集(行政区で月 1 回行われている資源回収)」が 54.7%と最も高く、次いで「集団回収(子ども会・学校などが行っている資源回収)」が 19.0%となりました。
活用した事例の進捗状況	第 23 回調査時(平成 28 年)以降も、資源の回収量が年々減少しています。約 4 人に 1 人が市以外の回収場所(民間資源回収場所など)を利用していることから、民間資源回収場所の動向(箇所数および取扱品目などの増減)を注視するとともに、分別収集や集団回収といった、市が設けている排出機会の利用を呼び掛けています。 また、この調査結果を受けて、市の資源回収量の捕捉率が低下していることが予測されたため、民間資源回収場所を設けている事業者に対し、回収量調査を行いました。

●水道水の安全についての意識調べ

飲料水を備蓄することについての意識調べ【水道業務課】

設問	1. 飲料水として、もっとも利用する水は何ですか。また、水道水を利用していない理由は何ですか。 2. 地震など災害時における飲料水対策をどのようにされていますか。
調査結果	1. 「水道水」が 42.2%と最も高く、次いで「浄水器で浄水した水道水」が 17.8%、「市販のペットボトル入りの水」が 17.3%となりました。また、水道水を飲料水として利用していない理由は、水道水は「安全性(水質)に不安を感じるから」が 26.0%と最も高く、次いで「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」が 25.6%、「水道水は塩素(カルキ)臭がするから」が 18.3%となりました。 2. 「市販のペットボトル入りの水などを備蓄」が 56.3%と最も高く、次いで「何もしていない」が 37.4%となりました。
活用した事例の進捗状況	1. 第 5 次稲沢市総合計画などで示されている目標値に対する達成度の検証に利用しました。 2. 飲料水の備蓄について、今後の啓発活動の方針・方法を検討する根拠として活用しています。

●住宅用火災警報器などの設置状況調べ【消防本部予防課】

設問	1. お住まいの住宅には、義務となる場所に住宅用火災警報器が設置されていますか。また、住宅用火災警報器の作動確認を実施しましたか。作動確認の実施結果はどうでしたか。 2. お住まいの住宅はいつ建てられましたか。また、「平成 18 年 5 月以前」と答えたかたは、どのような家族構成ですか。
調査結果	1. 住宅用火災警報器の設置状況は、「全て設置している」はそれぞれ、「一戸建て住宅」で 24.2%、「賃貸の共同住宅」で 7.7%、「持ち家の共同住宅」で 5.7%であり、合計が 37.6%となりました。「一部設置している」では、「一戸建て住宅」が 26.5%、「賃貸の共同住宅」が 3.4%、「持ち家の共同住宅」が 2.9%であり、合計が 32.8%となりました。また、住宅用火災警報器の作動確認をしているのは 49.9%で、このうち 96.1%が「異常なし」、「電池切れ、故障」が 2.0%となりました。 2. 住宅用火災警報器の設置が義務付けられた、平成 18 年 5 月以前に建てられた住宅は 68.6%で、この家族構成は、「65 歳以上のみの世帯」が 24.8%、「65 歳以上を含む世帯」が 73.8%でした。
活用した事例の進捗状況	住宅用火災警報器の設置義務以前に建てられた住宅において、約 25%が 65 歳以上のみの世帯であることから、住宅火災による死者を低減するため、行政区や事業所の消防訓練などでの啓発のほか、80 歳以上のかたを対象に戸別訪問する住宅防火査察に併せ、設置や交換を呼び掛けています。

●いきいきいなざわ健康 2 1（第 2 次）計画推進に向けて【健康推進課】

設問	1. たばこが影響する病気について知っていますか。 2. 日頃から体を動かすよう心掛けていますか。 3. 1 日に 30 分以上歩いていますか。 4. 朝食を毎日食べていますか。
調査結果	1. たばこが影響する病気の認識について、「肺がん」が 95.7%と最も高く、次いで「気管支炎」が 68.8%、「ぜんそく」が 63.8%となりました。 2. 「ときどき心掛けている」が 47.2%と最も高く、次いで「いつも心掛けている」が 30.9%、「心掛けていない」が 20.9%となりました。 3. 「歩いている」が 46.9%、「歩いていない」が 51.7%となりました。 4. 「ほぼ毎日食べる」が 86.7%と最も高くなっています。
活用した事例の進捗状況	いきいきいなざわ健康 2 1（第 2 次）計画中の評価指標として活用し、達成状況を確認しました。2023 年度の最終評価までに、事業の推進をしながら目標に近づけていきます。

●市民に利用される市民病院に向けて【市民病院管理課】

設問	あなたや家族のかたが病気などになったとき、稲沢市民病院を利用しますか。また、利用しない理由は何ですか。
調査結果	「利用する（利用している）」が 42.7%で最も高く、次いで「利用しない」 28.8%、「分からない」 27.9%となりました。年齢別では、65 歳以上の「利用する（利用している）」の割合が 52.2%と、他の年齢に比べて高くなっています。 利用しない理由としては、「自宅から遠く、不便」が 49.7%と最も高く、次いで「待ち時間が長い」 17.6%、「診療時間が合わない」 10.4%が主な理由になっています。
活用した事例の進捗状況	65 歳以上の利用率が高いことから、当院が開催する公開講座では腰痛や健康寿命など、高齢のかたがより興味を持っていただけるテーマを取り上げました。 「待ち時間が長い」という回答は、第 22 回調査時（平成 26 年）より低くなりましたが、混雑状況に応じて丁寧に説明することで、より利用しやすい病院となるよう努めています。